

ロジスティクス環境会議

第10回環境パフォーマンス評価手法検討委員会 議事録

I. 日 時：2005年6月3日（金） 15：00～17：00

II. 場 所：東京・港区 （社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：29名

IV. 内 容：

- 1) 2005年度の活動について
- 2) その他

V. 開 会

定刻、増井委員長により、開会が宣された。

VI. 議事の経過

1. 議 事

増井委員長の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

1) 2005年度の活動について【資料1】

事務局より、資料1に基づき、2005年度の活動の進め方について説明が行なわれた後、以下のような意見交換が行なわれた。

(1) 按分方法の標準化および包装材の使用量・排出量算定方法の標準化の分科会について

【主な意見交換の内容】

【委 員】改正省エネ法を考えると、按分をぜひやってもらいたい。

【委員長】企業によって立場が違うことから、各委員の希望を取って分科会のメンバーを調整したい。また、両方の分科会にご参加いただくことも可能にしたい。

【委 員】包装材については、使用量や排出量そのものだけではなく、その包装作業にかかわった人のエネルギーなども対象とするのか。

【委員長】逆に、現場としてどのようにできるのか、どこまでできるのかご提案いただきたい。それをLEMSに反映させたい。

【委 員】包装材について、自社の工場で排出した量は把握できるが、例えば海外へ輸出した場合のカウントはどうするのか、逆に海外企業から輸入して、日本の消費者に販売した場合、その包装材の排出責任の取扱はどうなるのか。

【委員長】ご指摘のとおりだ。ぜひ包装材の分科会でご検討いただきたい。

【委 員】鉄道および船輸送におけるCO₂排出量算定の標準化は検討しなくてよいのか。例えば鉄道については、電力消費量の数値がいい加減であり、これをもとに出されるCO₂の値もいい加減なものになってしまう。

【委 員】改正省エネ法を考えると、モーダルシフトを行なうことで、CO₂排出量を削減したいが、その削減量がきちんとカウントされていないと各社バラバラになってしまう。

モーダルシフトに関しても算定の標準式を作っていただければありがたい。

【委員】本委員会では、理論的に算定式を策定する場ではなく、算定式を実際に使う場ではないか。

【委員長】逆に現場ではこのようにやっているということをご提示いただき、それをLEMSにあげるのがいいのではないか。

以上のような意見交換が行なわれた後、以下のことが決定された。

i) ①按分方法の標準化、②包装材の使用量・排出量算定方法の標準化、③モーダルシフトにおける排出量算定方法の標準化について、各委員にどの分科会に参加したいかアンケートを取り（6月6日の週に実施）、希望の多かった上位2つについて分科会を発足される。

ii) 分科会のメンバーについては、上記アンケート結果を重視するが、場合によっては正副委員長および事務局で調整する。

2) 「二酸化炭素排出量算定ガイド (Ver.1) の試用」実施にあたっての事前アンケートについて

【主な意見交換の内容】

【委員長】一つの企業であっても、輸配送の形態、取り扱う製品によって、回答内容が変わってくるので、複数の表が出せるような仕組みが必要ではないか。

【事務局】今回はあくまでも前提としての確認である。データ取得はその後になる。仮に、説明会は必要ない、フォーマットだけあれば算定できるということであれば、それも可能である。

【委員長】アンケートを作るためのアンケートということか。

【事務局】3つの算定式で算定可能、1つの方法なら可能、まだ算定したことがないので分からない、など企業によって立場はいろいろあるが、どのデータが入手可能か教えていただければ、それをもとに「御社ではトンキロ法で算定できますね」と提示できると考えている。

【委員】アンケート調査のためのアンケートは必要ない。現在、どの算定方法で算定しているかを聞けばいいのではないか。昨年度も同様の調査を行なっており、同じことを聞く必要はない。燃料法の中でもどうやって値を取っているかなどを考えると、5種類ぐらいでいいのではないか。

【委員】このような複雑なことをしなくても、算定しているかどうかを聞けばいいのではないか。逆に、算定方法ごとの説明会を設定し、説明が必要な企業には、そこに参加してもらえばいいのではないか。アンケートについては、何をどうしたらいいか全く分からない企業にだけ行なえばいいのではないか。

【委員】どういう算定式でどのような項目を入れて計算を行なっているということであれば、アンケートの意味はある。

【委員長】輸配送形態ごとにどのような算定方法を行なっていますかという質問ならアンケートを取る意味はわかる。

【委員】参考資料4にあるとおり、幹線（貸切）、エリア（共配）、特積み（路線）ごとに、どのように算定しているのか聞けばいいのではないか。

【委員】アンケート項目に重量や容積が入っているのは、按分を念頭に入れてのことか。

【委員長】そのとおりである。

以上のような意見交換が行なわれた後、事務局にて、アンケートの目的を明確にした上で、再度アンケートを設計することが決定された。

2) 今後のスケジュール

分科会の活動は7月から実施する。また、適宜、本委員会も開催し、情報共有を図っていく。

2. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了し、増井委員長は閉会を宣した。

以 上